

第 1 学年国語科学習指導案

日 時 平成16年11月19日(金)
児 童 男3名 女7名 計10名
指導者 教諭 西城 由美子

1 単元名

こえにだしてよもう

2 教材名

「くじらぐも」 中川 季枝子

3 教材について

本教材は、学習指導要領「C読むこと」の(1)のウ「場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと。」、エ「語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと。」を主なねらいとしたものである。したがって、「文章の大体を理解すること」と「場面の様子を想像しながら読むこと」の指導を通して、豊かに想像を加えて読む力や、はっきりした声で音読する力をつけるにふさわしい教材であると考えます。

この教材は、体育の時間という身近な現実の中から、ふと幻想の世界に入り、想像の世界で存分に遊んだ後に、また現実の時間と空間に戻る。物語開始の場面は身近で入りやすく、入ってみると一挙に想像の広がりに戻してくれるという、児童が安心して空想の世界に遊ぶことができる物語である。

4 児童の実態について

児童のほとんどは新沼保育園を卒園しており、お互いのことをよく知っている。したがって、入学直後に見られる学校生活への不安を特に感じることもなく、毎日楽しく生活することができた。しかし児童のほとんどは、自分の思いを言葉で話すことを苦手とし、特に人の前に立って話をするのを嫌がったため、授業においては意欲的に発言する児童が少なかった。入学後1ヶ月ほどしてから「国語の勉強は楽しいか」を聞いてみると、9名が「楽しくない」「嫌い」と答えた。その理由として「発表するのがいやだから」「字を読むのがいやだから」「字を書くのがいやだから」ということが挙げられた。それらは、いずれも国語の学習にとって基礎となることである。そこで、「話すこと」「読むこと」「書くこと」を無理なく継続指導していきたいと考えた。その結果、9月上旬に「国語の勉強は楽しいか」を聞いたところ、6名が「楽しい」2名が「どちらかといえば楽しい」と答えた。

児童は、今までに学習した文学的教材を何度か劇にして表現してきた。初めは、動作化できなかつたり自分のせりふを考えることができなかつたりした児童も、回数を重ねるごとに自分の思いを表現できるようになってきている。また、練習の過程で友達同士教え合ったり、発表した友達に対して誉め合ったりするなど、学び合いもできつつある。しかしながら、お話の世界に入り込んで想像を広げたり気持ちを表現したりすることはどの児童も不得手である。大きな声ではっきりと音読できるようになってきたので、音読にも気持ちが表れるように読ませたい。

5 指導にあたって

児童は、想像の世界に遊ぶことができるようになってくる。この時期に、このファンタジー豊かな作品を扱うことは、想像豊かに読む力や態度を身につける上で意義深いことであると考えます。そこで、この教材を繰り返し読む中で、児童を想像の世界に遊ばせながら、自分の夢や願いや驚きを自由に話し合わせ、自分の世界を広げさせたい。また、文字と挿絵からイメージを膨らませて楽しめるような工夫をしながら、想像を楽しんでは声に出して読み、声に出して読んではまた想像を深めるということを大切に考えていきたい。

想像させるときに、動作化や会話文は大切なポイントになると考える。繰り返し出てくる文型や「・・・も」という叙述を押さえ、鮮明なイメージを描きながら動作化することによって、一つ一つの語句の使い方に関心をもって表現できるようになると考える。また、地上から呼びかける子どもたちと、空でこたえるくじらぐもの会話文を、主に子どもたちになってやり取りするうちに、児童は登場人物になり切り、場面の様子をより豊かに想像することができるだろう。

「選択」させる発問で、文中の表現や時間の経過を大切にして叙述を押さえさせ、「統合」させる発問で、会話文の声の大きさを考えさせたい。さらに、「類推」させる発問で、子どもたちの気持ちを考えさせることにより、登場人物である 子どもたち に十分に同化させたい。

この教材を通して、イメージ豊かに体験させて物語の中へ入り込ませることにより、物語を読む楽しさを味わわせ、確

かな言語能力を身につけさせると共に、想像力や情操を豊かに育てていきたい。

6 指導目標

場面の様子を想像しながら読み、音読や動作化などを工夫して、お話を楽しむ。

〔国語への関心・意欲・態度〕

- ・想像を広げてお話を楽しもうとする。

〔読むこと〕

- ・あらすじを押さえながら、場面を想像豊かに思い描いて読む。
- ・語や文としてのまとまりや内容、呼びかける声の大きさなどを考えながら、声に出して読む。

〔書くこと〕

- ・雲にのったときの言葉やくじらぐもへの手紙、くじらぐもの続き話で、自分が感じた事を書く。

〔言語事項〕

- ・片仮名を正しく読んだり書いたりできるようにするとともに、語句の意味を正しくとらえ、その使い方を理解できるようにする。

単元の評価規準

〔国語への関心・意欲・態度〕

- ・場面の様子を想像しながら読み、すすんで子どもたちやくじらぐもになりきって音読したり、動作化したりしようとしている。

〔読む能力〕

- ・場面の移り変わりを追い、あらすじを押さえながら、場面を想像豊かに思い描いて読んでいる。
- ・語や文のまとまりや内容、呼びかけるときの声の大きさなどを考えて、はっきりした声で音読したり動作化したりしている。

〔書く能力〕

- ・子どもたちやくじらぐもの気持ちを吹き出しに書いている。
- ・手紙や続き話で、楽しかったことやお話ししたいこと、想像したことなどを入れて簡単な文章で書いている。

〔言語についての知識・理解・技能〕

- ・平仮名や片仮名を正しくはっきりした発音で読んだり、書いたりしている。
- ・繰り返しの面白さを読み味わうとともに、語句の意味を正しくとらえ、文の中で使っている。

7 指導計画と評価規準（12時間）

段階	学習活動	評価規準	時間
つかむ	全文を読んで感想をもつ。 ・ 範読を聞く。 ・ 音読をする。 ・ 初めの感想を書く。	〔国語への関心・意欲・態度〕 ・ 範読を聞き、好きなところを見つけようとする。	1
	場面とあらすじをつかむ。 ・ 全文を読み、おおまかな場面とあらすじをつかむ。 新出文字や難語句についての理解を深める。 ・ 新出漢字の練習をする。 ・ 難語句について理解する。	〔国語への関心・意欲・態度〕 ・ 場面の様子を想像しながら、読もうとする。 〔言語についての知識・理解・技能〕 ・ 新出漢字の書き順が分かり、正しく書いている。	1
よみとる	の場面前半をくわしく読む。(題名～P4L5) 子どもたちの様子とかじらの様子を読みとろう。 ・ 題名から雲について話し合う。 ・ 書き出しを読みとる。 ・ 体操をしている子どもたちを想像する。 ・ くじらの様子を想像する。	〔国語への関心・意欲・態度〕 ・ 子どもたちとかじらが体操をしている様子を思い浮かべながら、音読したり動作化しようとする。 〔読む能力〕 ・ 子どもたちとかじらの様子を想像し、イメージ化している。	1

	<p>の場面後半をくわしく読む。(P 4 L 6 ~ P 6 L 6)</p> <p>体操をする子どもたちと、まねっこするくじらの様子を 読みとろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちのしていることを読みとる。 ・くじらぐもがまねをしていることが分かるところをさがす。 ・どことなくくじらぐもかを考える。 	<p>〔読む能力〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちとくじらの楽しそうな 出会いを読みとっている。 	1
	<p>の場面をくわしく読む。(P 6 L 7 ~ P 7 L 1 0)</p> <p>「くものくじらにとびのろう」といったときの子どもたちの 気持ちを考えながら読みとろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな気持ちで「おうい」とよびかけたかを考える。 ・どんな気持ちで「ここへおいでよう」と誘ったのかを考える。 ・よびかけにこたえるくじらの気持ちを考える。 ・はりきっている子どもたちの気持ちを考える。 	<p>〔読む能力〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くじらによびかけたり誘ったりす る子どもたちと、それにこたえるく じらぐもの気持ちを読みとってい る。 	1
	<p>の場面をくわしく読む。(P 8 L 1 ~ P 9 L 9)</p> <p>ジャンプする子どもたちと応援するくじらの様子を読み とろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの声の大きさを考える。 ・子どもたちの様子を工夫して音読したり動作化したりする。 ・くじらの様子を考える。 	<p>〔読む能力〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くじらに飛び乗ろうとする子ども たちの様子や応援しているくじらの 様子を想像し、工夫して楽しく読ん でいる。 <p>〔書く能力〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちとくじらの気持ちを考 え、吹き出しに書いている。 	1 本時
	<p>の場面をくわしく読む。(P 1 0 L 1 ~ P 1 1 L 4)</p> <p>子どもたちは、くじらに乗ってどんな空の旅をしたかを 考えながら読みとろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くじらに乗ったつもりで、何が見えるかを想像する。 ・くじらに乗った子どもたちの気持ちを想像する。 ・自分たちが考えた言葉を文章に入れて音読する。 	<p>〔国語への関心・意欲・態度〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちとくじらが一緒に旅を している様子を思い浮かべながら音 読したり動作化をしたりしようとする。 <p>〔読む能力〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くじらに乗って空を旅する子ども たちの様子を想像している。 	1
	<p>の場面をくわしく読む。(P 1 2 L 1 ~ 終わり)</p> <p>くじらに「さようなら。」を言っている子どもたちの気持ち を考えながら読みとろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時を振り返り、くじらから見えたものや子どもたちの気持ちを 確認する。 ・先生は何におどろいたかを読みとる。 ・帰ることになったときの子どもたちの気持ちを想像する。 	<p>〔読む能力〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くじらと別れる子どもたちの気持 ちを考えている。 <p>〔書く能力〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰ることになった子どもたちの気 持ちを吹き出しに書いている。 	1
考える	<p>くじらぐもに手紙を書く。</p> <p>くじらぐもさんに手紙を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くじらぐものあらすじを確認する。 ・手紙文の書き出しと終わりの書き方を理解する。 ・手紙を書く。 ・書いた手紙を紹介し合う。 	<p>〔言語についての知識・理解・技能〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平仮名や片仮名を正しく書してい る。 <p>〔書く能力〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語を読んで、思ったことや考え たことを手紙に書いている。 	2
生かす	<p>続き話を書こう。</p> <p>くじらぐもの続き話を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えた続き話を出し合う。 ・挿絵に風景やくじらぐもの絵を書き加える。 ・続き話を考えて書く。 	<p>〔国語への関心・意欲・態度〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お話の続きを想像し、続き話を書 いたり絵を描こうとしている。 <p>〔書く能力〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くじらぐもを題材にして創作文を 書いている。 	2

8 本時の指導

(1) 目標

子どもたちとくじらぐもが、共に夢を実現させようとしていることを読みとることができる。

(2) 展開

段階	学習活動及び学習場面	主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点	評価
つかむ 5分	1 学習課題を確認する。	ジャンプする子どもたちと、おうえんするくじらの、ようすをよみとろう。		・はっきりと声を合わせて読ませる。	
	2 前時までの学習内容を確認する。	・くじらは何と言って誘いましたか。 ・誘われて、子どもたちは何と言いましたか。	・ここへおいでよう。 ・よきた。くものくじらにとびのろう。	・本時の学習に関わる大切な場面を想起させる。	
	3 学習範囲を音読する。 (P8L1~P9L9)			・会話文に気をつけて読ませる。	
	4 学習範囲を読み深めていく。 (P8L1~P9L2までを読みとる。) ジャンプする子どもたちの様子を考える。	・子どもたちの会話文はいくつありますか。(選択) (会話文を読みましょう。) ・みなさんの声はだんだんどうなりましたか。(類推) ・どうして声が大きくなったのでしょうか。(統合) (ジャンプしてみましょう) ・言葉はみんな同じですか。違いますか。(選択) ・気持ちも同じですか。(類推) ・どのように違っていますか。(類推)	・3つ ・大きくなった。 ・三十センチ、五十センチと、高くなっていくから。 ・大きい声で言うと、とべるかもしれないから。 ・最初は少ししかとべなかったから。 (動作化) ・同じ ・違う ・みんなで言ってみただけ、あまりとべなかったから、もっととべるようにみんなの力を合わせる気持ちで言ってみた。	・教師が地の文とくじらぐも、子どもが子どもたちに分かれて読む。 ・高さに着目させて、次第に高くなっていくことを押さえたい。 ・「でも」「こんどは」に着目させる。 ・動作化をさせ、同化体験させる。 ・同じ言葉でも、そこに込められた気持ちに違いがあることに気づかせたい。	

応援するくじらの気持ちを考える。

子どもたちとくじらの気持ちを想像する。

・くじらは、なぜ何度も同じことを言っているのでしょうか。
(統合)

・子どもたちとくじらは、どんなことを考えながら飛んだり応援したりしているのでしょうか。
(類推)

(子どもたちとくじらの気持ちを書いてみましょう。)

(どうしたいのかがわかるように会話文を読みましょう)

・はりきって言ってみたけど、高くとべなかったから、もっとがんばるぞという気持ちで言ってみた。
・くじらがおうえんしてくれたから、がんばってとぼうという気持ちになった。

・もっと高くとんでほしいから。
・なかなか高くとべないから応援した。

・もっともっと高くとんで、くじらの背中に乗って遊びたい。
・みんなで力を合わせてもっと高くとべるようにがんばるぞ。
・がんばって早くせなかに乗ってほしい。
・ここまでこれるように、がんばって応援しよう。

(動作化)

・くじらにのりたいたいという気持ちがだんだん強くなっていることを押さえる。

・くじらも、子どもたちにのってほしいと思っていることを押さえる。

・子どもたちやくじらの気持ちを、吹き出しに自由に書かせたい。

(指導を要する児童への手立て)
子どもたちやくじらがしたいと思っていることを絵で表現させる。

・子どもたちの会話文が、次第に力強くなるように読ませたい。

(指導を要する児童への手立て)
友達の名ねをしながら読めるような雰囲気をつくる。

〔評価規準〕
・くじらに飛び乗ろうとする子どもたちと、応援するくじらの気持ちを読みとっている。
〔具体的評価規準〕
(発表、ワークシート)

A：子どもたちもくじらも、共に同じ気持ちをもっていることに気づき、どのような夢をもっているのか(どんなことをしたいのか)を読みとっている。
B：子どもたちもくじらも、共に同じ気持ちをもっていることに気づいている。

〔評価規準〕
・くじらに飛び乗ろうとする子どもたちの様子を、工夫して音読したり動作化している。
〔具体的評価規準〕
(音読)

A：1回目より2回目、2回目より3回目と、力強く読んだり、高さに合わせてジャンプをしている。
B：1回目より2回目、2回目より3回目と、力強く読んでいる。

	(P 9 L 3 ~ P 9 L 9 を読みとる。) くじらに乗ったとき の気持ちを想像する。	(そのときです) (みんなで手をつないでくじら ぐもに乗る) ・どんな気持ちですか。(類推)		・「そのときです」を 強調して、場面の転 換に気づかせる。 ・次時につながるよう に、同化体験させたい。	
ま と め る	5 学習範囲をまとめ る。	(板書を使って、学習内容を振 り返る) (まとめの音読をしましょう)	・(音読)	・子どもたちとくじら の気持ちが表れる ように読ませたい。	
5 分	6 次時の学習を確認 する。	(次の時間は、4の場面の空の 旅をする子どもたちとくじらぐ もの様子を読みとります)		・くじらに乗った体験 が、次時の意欲につ ながるようにさせ たい。	

9 板書計画

教 卓

O . K 発表 読むこと 書くこと	S . N 発表 読むこと 書くこと	T . S 発表 読むこと 書くこと	M . A 発表 読むこと 書くこと
I . H 発表 読むこと 書くこと	T . A 発表 読むこと 書くこと	T . Y 発表 読むこと 書くこと	H . A 発表 読むこと 書くこと
	O . M 発表 読むこと 書くこと	S . R 発表 読むこと 書くこと	

〔発表〕

意欲的に自分の考えを発表する。
自信があることは進んで発表する。

〔読むこと〕

書かれている内容を正しく読み取ることができる。
書かれている内容を概ね読み取ることができる。

〔書くこと〕

自分の考えや思いを進んで文章に書くことができる。
自分の考えや思いを簡単な文で書くことができる。

1 2 3 4 5 6 7